

【柳井市】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

「地域協育ネット」等が主体となり、学校・保護者・地域・関係機関が連携し、地震災害について学ぶとともに、防災訓練や避難所生活を想定した宿泊体験、防災食体験、救急救命訓練等を含む総合的な体験学習を実施し、児童生徒が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

実施内容

- 1 実施日時：令和6年8月9日（金）・10日（土）
- 2 実施場所：柳井西中学校
- 3 参加者：小学生10人、中学生7人、高校生1人、地域住民10人、小中学校教職員7人、消防士1人、消防団員2人、防災士2人、小中学校学校地域コーディネーター3人、地域協育ネット代表3人、公民館長2人、市危機管理課職員2人、市地域づくり推進課職員2人、市教育委員会職員4人

4 プログラム

【1日目】8月9日（金）

13:00	13:30	14:00	15:40	17:30	19:00	19:35	20:50	21:20	22:00	
受付	開会行事	アイスブレイク	プログラム1 【避難所体験】 ・避難所のルール ・運営の実際	プログラム2 【防災スキル】 ・AED講習 ・ロープワーク ・応急措置 ・布担架	【防災食体験】 ・アルファ米 ・温めず食べられるカレー	【講話】 被災地派遣職員	プログラム3 【リアル脱出ゲーム】 (待ち時間) ・防災情報 ・ハザードマップ ・非常持ち出し袋	夜食タイム	就寝準備	就寝

【2日目】8月10日（土）

6:00	6:40	7:10	8:00	8:50	10:30	11:00	11:40	11:50
起床	ラジオ体操	【防災食体験】 アルファ米	片付け 清掃	プログラム4 【災害体験】 ・給水車 ・災害体験VR ・スモークマシン ・消火器 ・マンホールトイレ	後片づけ	【振り返り】	閉会行事	解散

5 活動の様子

1日目

《受付・開会行事・アイスブレイク》

開会行事終了後、各グループで自己紹介、「班長」「保健」「食事」のリーダー選出、アイスブレイクを行いました。グループメンバーの共通点探しを行うことで、初めて顔を合わせた広い年齢層の参加者も気持ちがほぐれ、その後の活動で協力しやすい雰囲気ができました。



【防災キャンプ受付】



【地域協育ネット会長挨拶】



【アイスブレイク グループ交流】

《プログラム1 避難所体験》

市危機管理課より、災害発生時の避難所開設について説明を聞きました。キャンプ実施の前日に日向灘でマグニチュード7.1の地震が発生し、柳井市では震度3を計測したこと、またこの地震により南海トラフ地震臨時情報が発表されたことについて詳しくお話をいただきました。地震のメカニズムや命を守る行動、地震への備えについて、実践力の高まる内容でした。

その後、避難所の設営や避難所で使われる防災用品について説明を受け、実際に防災用品の組み立て体験を行いました。



【南海トラフ地震について】



【防災用品組立】



【避難所個別スペース】

《プログラム2 防災スキル》

柳井消防署の消防士、救命救急士の指導の下、全体で心肺蘇生法、AEDを使用した救命の講習を受けました。一人ひとりが実際に行うことで、心臓マッサージをし続けるには、かなりの力が必要なこと、救急車が到着するまでみんなで協力しながら継続すること等、体験的に学ぶことができました。またAEDの使用については、不安をもつ参加者もグループで協力しながら学びました。救命の行動をとる時、まずは大声で人を集め、みんなで助け合うことが大切であると知りました。

その後は、グループごとに「ロープワーク」、「応急処置」、「布担架」の3つのブースを体験し、防災スキルを身につけました。「ロープワーク」はボーイスカウトの方が、「応急処置」は救命救急士が、「布担架」は、防災士が指導者を務めました。



【心肺蘇生法】



【応急処置】



【布担架】

《防災食体験（夕食）》

アルファ米（白飯）と温めなくても食べられるカレーを夕食としました。水が使えない状況で何度も皿を使用することを想定して、皿にラップをして盛り付けました。思った以上に美味しく食べやすいと評判でした。また、保存水の味が苦手という参加者も、麦茶の粉末スティックを使用することで美味しく水分補給ができました。



【アルファ米カレー実食】

《プログラム3 リアル脱出ゲーム》

最初に能登半島地震災害派遣へ参加した市危機管理課職員から、体験を交えた講話を聴かせていただきました。その後、リアル脱出ゲームを行いました。グループごとに出発し、防災クイズを解き、指令に従って「課題」に取り組むゲームへの挑戦です。これまでのプログラムで学んだり体験したりして身に付けたスキルを利用しながら、課題をクリアする時間を競いました。指令①「火災場所を避けて避難せよ」、指令②「けが人に応急処置をせよ」、指令③「けが人を連れて全員で脱出せよ」をそれぞれ、応急処置や布担架、ロープワークを駆使して解決しました。役割分担をしてそれぞれが役割を果たすグループや全員で協力しながらすべてをこなしていくグループ等、グループのカラーがよく分かる活動でした。

1 グループごとに脱出ゲームをスタートさせるため、出発までの待ち時間にタブレットやスマートフォンを用いた、防災情報の入手方法や防災アプリの活用方法、柳井市のハザードマップについて、危機管理課職員から学びました。また、非常持ち出し袋の中身について、何を準備しどのように使ったらよいか防災士から教わりながら考えました。1日の学びを振り返ることのできる貴重な体験になりました。



【けが人に応急処置をせよ】



【ロープワークで脱出せよ】



【非常持ち出し袋について】



【能登半島地震災害派遣職員講話】



【防災クイズに挑戦】



《夜食タイム》

湯を沸かせない場面を想定したカップ麺の水戻しに挑戦した参加者もいました。非常用ビスコ、非常用5年保存水、水無歯磨き、非常用簡易トイレの配付を行い、非常持ち出し袋で管理することや非常時の使用方法について確認しました。



【夜食タイム】

《就寝準備・就寝》

熱中症対策の為、エアコンが使用できる教室で寝床づくりを行いました。エアマットはクッション性が高く、床や段ボールよりも身体への影響は少ないが、エアマットのこすれる音や汗を吸収しない材質等気になることも体験の中で見付き、非常持ち出し袋にタオル類の準備も必要だと気付きました。また、エアマットを膨らませることは短時間で出来ますが、使用後に空気を抜く作業は非常に時間がかかりました。



【エアマットで就寝】

2日目

《起床・ラジオ体操》

起床後は、運動場でラジオ体操を行いました。



《防災食体験（朝食）》

アルファ米（わかめご飯）を水で戻しました。水戻しは約60分かかるため、食事リーダーを中心に起床後すぐに水を入れておいたものを、朝の片付けとラジオ体操終了後にいただきました。



《プログラム4 災害体験》

グループごとに5つの災害体験ブースのスタンプラリーを行いました。

給水体験では、給水車から背負うことのできる袋に給水を行いました。スモークマシンでは、テント内に充満させた煙の中を通り抜けました。煙による視界の悪さに驚きながらも、口鼻を押さえ、姿勢を低くしながら手探りで進んでいました。消火器体験は、水消火器を使って約5m先の炎の的に向けて消火活動を行いました。災害時の避難所の対応として、マンホールトイレと電気自動車からの電気供給を知りました。避難所のトイレについては、実物を見ながら使用方法を知ることによって安心出来た参加者もいました。災害体験VRは、リアルで臨場感のある映像に恐怖体験にならないか準備段階では心配をしていましたが、実際にVRを体験することで、これまで聞いた津波の恐ろしさを現実の災害として受け止める貴重な体験となりました。



【煙体験】



【水消火器体験】



【電気自動車】



【給水体験】



【災害体験 VR】



【マンホールトイレ】

《振り返り》

2日間の学びの振り返りを行いました。「今回学んだこと」「今後に生かしたいこと」「さらに訓練したいこと」を話題に、個人での振り返り、グループでの振り返りの時間を持ちました。2日間をじっくりと振り返ることで、改めて経験や学びを実感することができていました。最後にグループリーダーが全体に発表することで、振り返りを参加者全員で共有しました。



【個人で振り返り】



【グループで振り返り】



【振り返りの全体共有】

《閉会行事・解散》

地域協育ネット会長、県教育庁学校安全・体育課主幹のご挨拶をいただき、無事に2日間の日程を終了しました。高い気温の中での開催となりましたが、けが人や体調不良者を出さず多く多くの学びのある防災キャンプとなりました。



【児童・生徒の感想から】

- 色々災害のことを学ぶことができよかったです。もし災害が起きた時に今回学んだことを生かしたいと思います。
- AED や心臓マッサージも防災だということが分かりました。
- もし災害が起こった時に分からない人に今回学んだことを教えてあげたいです。
- 心臓マッサージや骨折した人の処置の仕方を教えてもらったから、もしそのようなことがあったらできるようになりたいです。
- AED や消火器は使ったことがなかったので経験できてよかったです。
- 応急処置やAED の講習を聞き、何かあった時に絶対役に立つと思いました。
- AED やロープワーク、応急処置などは難しそうなイメージがあったけれど、実際やってみると思っていたよりも簡単にできました。
- 非常食を食べることやVR 体験といった色々な体験ができました。地元でやるので、いざという時に役立つと思いました。
- 自分が想像していた以上に大変でした。日頃からの準備が大切だということが分かりました。
- 防災について、とても分かりやすく楽しく知ることができて学ぶことが多かったです。いつ災害が起きても対応できるように日頃から心がけていきたいです。
- 災害が起きた時のために準備をしようと思っていたけれど、何を準備したらよいか分からなかったもので、知ることができてよかったです。石川県に実際行かれた方の話を聞いたり写真を見たりして、すごく学びました。
- 担架をつくることやAED 講習、応急処置は将来役に立つと思いました。ロープ1本で身を守れることが分かりました。
- 班行動だったので、防災のことも身に付いたし、初対面の人と交流できたことも良かったです。
- 2 日間にわたり、色々な方々のおかげで防災キャンプを体験することができました。教えていただいたことが、実際災害にあった時少しでも役立つように今からできることを始めたいと思いました。
- 防災に対しての今まで他人事で考えていたことが自分ごとに考えられるようになりました。
- 疑似体験でも防災について考えること、感じる事、経験することができて非常に役に立ちました。もしもの時に役に立てられるよう頑張ります。
- AED の使い方等、一度習っていてもどうしても実際に使用する時まで覚えていられるか不安になることもあるため、このような機会に再確認できることにありがたさを感じました。
- 地域の方々と交流できる良い機会だと感じました。